



左から、下山施設長、佐藤支援課長、笹川支援員

### 市内の施設訪問記

虹のよこのびやかこー！  
「利用者の個性が  
尊重される環境を目指そう！」

今年も残りわずか10日となった12月22日(金)に障がい者支援施設「虹の家」におじゃましました。施設長の下山正明さん、支援課長の佐藤裕樹さん、支援員の笹川尚人さんにお話を伺いました。

#### ★虹の家の創立までの由来は？

平成4年の6月1日に開所。町田に住んでいた障がい者の親御さんたち5人が家族会「虹の会」を作り、当時相模福祉村の創設者 赤間一之代表(あかまかずの)にお願いして施設を作っていただいたということになります。それで「虹の家」と名付けられたということになります。

#### ★利用者さんの人数、活動の内容は？

入所施設の虹の家60名、通所施設の虹の星30名、ケアセンターやすらぎ30名で、「ドア・ドア」の完全送迎を実施しています。

18歳から50歳代の方で構成され、障がいは主に知的障がいの方々です。日中作業として屋内では自主製品の制作と販売を行っています。七色唐辛子は、自分たちで育てた唐辛子を使用して作り、フェアなどで販売されると人気です。また、プレスレット、ピースアクセサリー、機織り機で織られた織物などもあります。



野外では自然豊かな土地を利用し烏骨鶏、アローカナの卵、野菜の栽培、販売など多くのメニューを取り揃えて活動しています。これらの製品は虹の家、南区若松にあるインボーション、市役所横の豆子の店などで販売されています。また、散歩など皆さんは体を動かすのが大好きです。余暇にはカラオケ、スイーツ作り、講師を招いてのコースなどサークル活動も実施しています。作業や活動に関しては、利用者自身は何をするかを決めて行っています。

地域交流も盛んで、近隣の自治会の催し物への参加、地域防犯のためのパトロール、道徳川の清掃など、しっかりと地域との交流を持っています。施設の催し物の夏祭りには焼きそばなどの模擬店や花火も打ち上げ、地域の方々も含め1000人位の参加者で賑わいます。

お話の後、施設の中を案内していただきました。おじゃました時には、クリスマスが近い時期だったため、入り口には大きなサンタクロースがみんなをお迎えし、玄関に入ると折り紙で作った、これまた大きなリースが！これは利用者さん、スタッフさんで作ったそうです。施設の中は天井、壁、2階まで吹き抜けになったイベントホール、作業室など、どこもクリスマス飾りが飾られるなどクリスマス一色で、説明していただいている最中もワクワク楽しくなってきました。



クリスマス一色

そんな中、機織りをする人、ピースストラップを作るグループ、ピースストラップの材料に使うムクロジの木の皮を剥く人など色々と作業をしていらっしゃる方が、ムクロジの実を硬くて皮を剥くのが大変だそうです。それでも熱心に剥いていらっしゃいます。それぞれ自分の作業に集中する姿が見られました。

施設では、このご利用者さんの様々な障害を受け止め、ニーズに即した生活支援を提供し心身共に健全で明るい豊かな生活を送られるように、健康面、生活面、作業面などサークルの提供に努めていらっしゃいます。

自然豊かな地で、地域とも関わりながら充実した支援を通して、幸せを感じる居場所だと思えました。師走のお忙しい中、対応していただきましてありがとうございました。(恒藤・小山)



ムクロジの実



人気の七色唐辛子



\*社会福祉法人相模福祉村 虹の家  
施設長 下山 正明  
〒252-0335 神奈川県相模原市南区下溝 4410  
電話番号 042-777-0111  
Eメール nijinoie@fukushimura.or.jp